

# 佐賀豊明会

▼毎週水曜日、中央公民館の詩吟指導者教室のみなさん



## 吟じることを楽しむ！ 新メンバーも募集中

社団法人関西吟詩文化協会佐賀豊明会（古川大吉会長）は、多久市内外の小学生から92歳の高齢者が会員で約200人、30教室がある詩吟のグループです。年齢を問わず誰でも詩吟を楽しんでいます。

毎週水曜日、市内外で教室を開いている指導者のための教室が中央公民館であります。6月29日は『諸田賢順を偲ぶ会』で詠う漢詩を練習。市内の詩人の松下登美保さんと副島健三さん作の漢詩を、古川会長が一節ずつ詠って指導します。漢詩の意味や時代背景についても詳しく説明し、歴史を知ることでもでき、指導を受けた指導者は各教室に持ち帰り会員に伝授します。

詩吟歴40年の松本繁さんは、「優れた名詩は感動を与え、好きな詩を詠う楽しみがあります。腹式呼吸でストレス発散し、健康のためにも良いです。多久市は漢詩の里。『岸川節譚』、『多久八景の詩』、『草場佩川の詩』など地域にある詩を詠って残していこうと思っています」と話し、聖廟積菜奉納吟や市文化まつり、各町文化祭で活動をしています。一緒に漢詩を吟じることを楽しむ新会員も募集中です。

問 多久市文化連盟 ☎74-3241

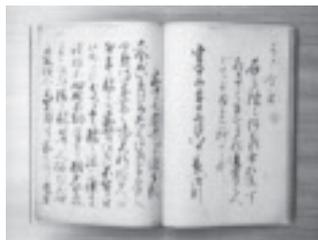
### ●連載4● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

## 多久茂文公没後300年

学問所を設け聖廟を建て、文教の里多久の礎を築いた佐賀藩多久領四代領主多久茂文公。しかしその道のりは、決して平坦ではありませんでした。今回紹介する資料

「家中之者共江申渡候手頭」（1695）には、学問を多久に根付かせようとする若き領主の苦闘がよくあらわれています。「最近の若者たちは努力を怠り、何事にも不真面目である。このままでは多久が立ち行かなくなってしまうため、悔い改め学問や武芸に精進しなければならない」とし、「学問と武道、侍の心構えを身につけ、それぞれの役目に励むこと」など3か条のお触れを出し、これを守らない者には家督を継がせないなど厳しい罰を与えることが記されています。

今年が茂文公没後300年です。



◀「家中之者共江申渡候手頭」佐賀県重要文化財・多久家資料にはこのような古文書が約2,800点あり、まさに多久の宝といえます。

### 『多久市郷土資料館』

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日

（月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館）

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

## 市民文芸

### 短歌

《表の茅短歌会 互選》

咲いた花切るには惜しくためらいつ

本田 静香

鳴門より春の若布の届けられ

本村 則子

絵を描く事もなかりし近頃は

梶原恵美子

どうせ一生わらって暮らせと老い母の

浦野 嘉恵

津波禍の今こそ日本に帰化すとう

尾形 節子

### 俳句

《楳樹句会 互選》

わが過去に蜜のような恋のあり

不二見恵美子

一息を入れてとどまる木下間

野田キヌ子

黄砂来る蒙古に家財残しあり

大坪 蒙仁

気丈夫も雷怖じる妻なりき

森山 袍石

### 川柳

《多久市川柳会 互選》

不摂生 検査結果に咎められ

高塚チカ子

別れの予感一人芝居がうまくなる

田代まつこ

辛いけど手と手が触れる山歩き

井上 東子

山彦はまだ達者かと呼んでみる

松下 修

天災に列島の知恵試される

西山 残月